



Kodai



Jini

1 ●ごあいさつ

同窓会会長

秋元 俊通

学長

今野 弘氏

学長室長（情報サービスセンター長）

上杉 直氏

副学長（国際交流委員会委員長）

石川 善美氏

副学長

渡邊 浩文氏

5 ●支部活動等報告

9 ●恩師からの便り

クリエイティブデザイン学科 原田 一氏

●学科だより

11 ●課外活動

13 ●仙台城南高校だより

14 ●インフォメーション

16 ●同窓会定時総会・懇親会のお知らせ

工大人 Vol.22 の 発刊に当たって



東北工業大学同窓会 会長
秋元 俊通 (あきもと としみち)
1975年 土木工学科卒業 (5回生・菊地研究室)
現在 株式会社 秋元技術コンサルタンツ
代表取締役
土地家屋調査士 秋元俊通事務所
所長

36,400名を越す正会員と3,200名を越す学生会員、そして現教職員の皆様の準会員とを合わせて4万人を越す会員の皆様のご健勝に心よりお慶び申し上げます。また、日頃より当会へご理解とご協力をお寄せいただいております会員の皆様はじめ、大学ご当局並びに関係諸団体及び法人の皆様へ衷心より御礼申し上げます。

当同窓会機関誌「工大人 Vol.22」の発刊に際し、お寄せいただきました多くの関係者のご協力への感謝の心とともに、本誌を皆様にお送りできますことを嬉しく思っております。

大学におかれましては、入学者の増加、就職率では大学探しランキングブック2018(株式会社大学通信出版)に掲載の2017年実就職率ランキングで1位、また、日本経済新聞と日経HRが実施した大学イメージ調査の「採用を増やしたい大学」で2位にランキングされ6月6日付の日本経済新聞に掲載されるなど、大学のイメージの向上に邁進されておられることに、同窓生として誇らしい思いです。電子工学科・通信工学科、建築学科および土木工学科、工業意匠学科がそれぞれ創立50周年事業を終了され、大いに気炎を揚げられましたことにお慶び申し上げます。さらに、今年度はライフデザイン学部の創立10周年にあたっておりますので、記念事業に支援させていただきます。

同窓会のトピックスは、「転職マッチング事業」を「同窓生が勤める企業紹介」(下段参照)で開始されました。職業紹介(斡旋)ではありませんので、題名が「企業紹介」の為ピンとこない方も多いかと存じます。今後の検討課題とさせていただきます。現在15社様からの応募がございますので、会員皆様へのサービスの一環として、これからも皆様のご理解を頂戴しながら企業数の拡大に努力してまいります。

東日本大震災から7年半が経ちました。亡くなられた方々への深甚なるお悔やみを申し上げますとともに、被災された皆さまに心よりお見舞いを申し上げます。また、復旧復興に際し会員諸氏の献身的なご活躍に敬意を表します。東日本大震災の復興は目標期間10年の最終の3年の復興・創成期に入り、どこか気が抜けた状況にあります。しかし、あの震災発災以降の天災が年々増加しており、全国的に見てもあの震災以外の災害での避難生活者の多いことには驚かされます。さらに、7月の西日本豪雨災害では新たに7千人が増加しました。このように東北太平洋側三県だけが被災したのではないということを強く意識し、福島県原発被災地以外は復旧を果たした現在、私達は全国に目を向け、他地域での災害復旧を支援する時期になったのではないかと考えております。

当同窓会のスローガンであります「新たなネットワークを目指して」の実践につながるよう、新潟を含む東北北海道地区の同窓会県・道支部や準支部および関東圏の集い等の活動を積極的に開催又は応援してまいりますし、可愛い後輩である学生会員の学生生活、課外活動そして就職支援も欠かせないものであります。

今後とも、皆様のご理解とご支援を当同窓会にお寄せいただけますようお願い申し上げますと共に、皆様のますますのご健勝と東北工業大学のご発展をお祈りさせていただきます。発刊の挨拶とさせていただきます。



OB 企業と OB の求職者を結ぶ企業紹介サイト公開中

同窓会として卒業生への大きな支援の役割を果たす企画として運営している企業紹介サイトです。掲載企業の「当社の強み」や「今後求める人材と資格者」そして「OB・OG一覧」の情報を開示しており、転職を考えている同窓生求職者向けの情報が盛沢山の内容となっております。

掲載希望の企業様へ

掲載する企業様の掲載料金は発生しません。OB・OGが勤めていれどなたでもご利用出来ますので、皆様の参加をお待ちしております。

鼓舞する未来にむけて



東北工業大学 学長
今野 弘 (この ひろし) 氏
1971年 工学部土木工学科卒業
1980年 工学博士(東北大学)
1980年 東北工業大学工学部土木工学科 講師
1995年 同工学部土木工学科 教授
(現都市マネジメント学科)
2008年 同副学長
2016年 同大学学長

同窓会の皆さまの本学に対する力強いご支援、ご協力に対して、改めて感謝申し上げます。

東日本大震災からすでに約7年半が過ぎますが、その後も台風などの豪雨、火山噴火などの自然災害、そして今年は猛暑でも人の命が脅かされる社会になっています。皆さまにはそれぞれの分野において、生活環境そして地域や産業の復興、再生に、精力的に取り組んでおられることを心強く、たいへん誇りに思います。その評価は、まさに同窓生の皆さまの業績に基づいているわけですが、結果として本学も社会的に評価されると認識しており、この点でも皆さまには改めて感謝申し上げます。

平成の結びの年度ですが、大学の近況と今後の計画について報告させていただきます。

入学者に関しては、今年も入学定員を確保することができ、学部全学生数も収容定員の104% (2018.5時点)を維持してします。一方で卒業生についても、就職力、就職に強い大学として社会的に高く評価されています。

教育、研究および社会貢献活動に力を入れること、そして社会が求める人材の輩出を続けることが、大学の責務であることに変わりはありません。本学では、社会が必要とする人材を育て、輩出するとともに、教員の研究成果の社会への還元および学会活動をはじめ、地域や産業界の課題解決など大学としての社会貢献にも力を注いでいます。

本学の教育体制としては、多様な学生を個に応じて育て上げ、社会への発進をサポートすることを目標として、教育課程の整備、教育方法や手段の開発、熱意ある教職員の協働する環境の構築を進めています。

具体的には、①多様な学生に対する企業や卒業生および地域の方を招聘した講師陣容、②実験や実習、演習などを多く取り入れた実践教育、③講師陣をサポートする技術支援センターと高校の学習履歴の多様性を補完する学修支援センターの拡充、などを進めています。

研究体制としては、教員の研究活動を推進するために、今年度当初に研究支援センターを設置するとともに、震災復興後の研究拠点となるべく、①防災減災技術、②健康福祉・医工学、③地域・地場産業振興 の分野

野を柱とした研究においても、地域から信頼される大学を目指しています。

一方大学創設後50年を経過して、特に八木山キャンパスの施設面での整備も必要となり、学部学科の再編計画とリンクさせて計画を進めています。また次期中期計画も策定中ですが、東北工業大学の新たな形を、施設面と合わせて構築する構想で、建学の精神を基本とするこの半世紀の実績を総括して、本学の特徴をより鮮明に社会にアピールする活動を展開し続けたいと考えています。

大学を取り巻く社会環境は厳しさを増す一方ですが、自身を鼓舞し、今後とも皆さまのご協力を仰ぎながら歩みたいと思います。引き続きご支援をよろしくお願い申し上げます。



今野学長からの「自校教育」(1年生全員に講義)



東北工業大学と学生を鼓舞し続ける北門(旧正門)入口のメタセコイヤ並木

教育の質向上に向けて・・・ 学修データ（IR データ）の活用



東北工業大学 学長室長（情報サービスセンター長）
上杉 直（うえすぎ なおし）氏
2000年 通信工学科 教授
2008年 情報通信工学科長
2010年 工学部長、工学研究科長
2014年 学長室長
2016年 情報サービスセンター長

同窓会の皆様には日ごろから、本学の教育研究活動の向上に向けて様々なご支援、ご指導を賜り大変感謝しています。

さて、マスコミでも話題になっていますが、近年の少子化に伴う大学のユニバーサル化の状況の中で、地方の私立大学を取り巻く環境は厳しいものがあります。本学も東日本大震災後、しばらく定員割れが続いていました。しかしながら、この3年間、毎年定員を大幅に上回る入学者を迎えることが出来ています。また、卒業生の企業からの評価も高く、その結果就職率も高く推移しており、同窓生の地域社会におけるご活躍の賜物であると感謝しています。今後とも社会からの高い評価を受けるためには教育の質向上が不可欠であると認識しています。

本学では教育の質向上を目指し、建学の精神である“我が国特に東北地方の産業界において指導的役割を担う技術者の養成”を踏まえて、入学から卒業に向けての基本方針(AEGG ポリシー)を明確にしました。H26年度には学長室を設置し、大学 IR 活動を開始しました。企業における投資家に向けた IR (Investor Relations) 活動は良く知られていますが、大学における IR (Institutional Research) 活動では、個々の学生の入学から卒業までの学修情報を把握し、調査・分析することで生活指導、学修支援の必要性、あるいはカリキュラムの構成、内容の変更、授業方法の改善などに役立てることを目的としています。これまで各担当部署で収集してきた学修情報を集約し、一元的に集約されたデータに基づき教育の質の調査・分析をしています。大学の評価は、往々にして予備校や塾などが発表している入試の偏差値により決められることが多いのですが、大学の教育の質の評価は偏差値とは異なることは明らかです。

本学は建学の精神を踏まえ、多様な学生を受け入れており、これまで個々の学生に対して面倒見良く学修指導を行ってきました。客観的データに基づく学修 IR 活動の充実により、学生が学士力を付けて卒業するまでの課題を把握し、課題を取り除く上での大学の施策

に反映できるようになりました。特に、工学部では数学、物理などの理数系に拘わる多くの授業科目を履修することになります。しかしながら、高校で必ずしも十分に基礎的理数系の授業を受けていない学生も散見されることから、H29 年度からは学修支援センターを設置して、大学の専門科目の授業と高校までの授業内容の橋渡しを行っています。受講している学生の評判は良く、大学での学修効果が期待されます。また、個々の学生のセメスター毎の成績推移の調査により学生の学修状態を把握することができ、教員やアドバイザーによる学生との個別面談により、状況把握と課題解決に向けた対応などのきめ細かい学修指導を行っています。尚、大学の評価の指標として入学者数、退学率、卒業率、就職率、収容定員充足率などが用いられていますが、本学はこれらの総ての指標が年々良い方向に推移しており、教育の質向上が図られていると考えています。勿論、卒業生の学業の指標である成績もここ数年、毎年高くなっています。このように、学修 IR により種々の指標のデータの年度推移を調査することで、本学の教育の質向上の状況把握ができます。今後とも客観的データに基づき更なる質向上に向けた課題解決への施策の具体化を図っていきます。

最後になりますが、同窓生の皆様には今後ともご支援、ご指導を宜しくお願いします。



学習支援センターの様子

大学における国際 交流事業の意義



東北工業大学 副学長（国際交流委員会委員長）
石川 善美（いしかわ よしみ）氏
1990年 東北工業大学助教授
(工学部工業意匠学科)
1994年 同教授
2008年 同ライフデザイン学部安全安心生活デザイン学科に配置換え
2012年 同副学長、ライフデザイン学部長
2016年 副学長

若い学生にとって、言語はもちろん文化や気候風土を異にする海外の人々との交流は、学びの感性を刺激し、視野を広げ、ひいては人生を豊かにする源（みなもと）となります。このような観点から、本学では、平成 27 年に「東北工業大学国際化ビジョン」を打ち出し、海外の大学との学術交流を積極的に推進しております。現在、国際交流協定を締結した大学は、学科同士の協定も含めると 15 校（中国 6、韓国 2、台湾 2、タイ 1、ベトナム 1、インドネシア 1、フランス 1、アメリカ合衆国 1）にのぼります。これらの大学とは学生の派遣と受け入れの MOU（覚書）を取り交わしており、これまでに 80 名以上を派遣し、60 名以上を受け入れております。

とくに、タイの泰日工業大学とは、学生の交流はもちろんのこと、2 年ごとにお互いの大学を行き来して学術シンポジウムを行っています。台湾の中原大学とは、2 ヶ月間ほどの交換留学を続けておりますが、中原大学が来学するのは毎年 11 月頃で、学習の合間に、雪を見たことのない学生に蔵王でスキーを体験してもらったりもしています。また、同じく台湾の玄奘大学からは、今年、本学としては初めて、1 セメスター（学期）という長期の留学生 1 名を受け入れました。単位取得が目的で、本学での成績が玄奘大学で単位認定される見込みとなっております。

近年のトピックスとしては、2 年前に、日本国際協力センター（JICE）の KAKEHASHI Project に本学が採択され、アメリカはテキサスのヒューストンに 23 名の学生（引率教員 2 名）を派遣したことが上げられます。これには、公募の段階で 100 名近い学生が手を挙げ、選抜に大変苦労しましたが、本学の学生の潜在意識の高さを垣間見る思いで、うれしい悲鳴でした。

いずれにしても、プログラムを終えた学生の表情は実にゆたかで充実感溢れるものがあります。国際交流の意義はまさにここにあるのだ、と思える瞬間であります。同窓生の皆さんも、是非、本学ホームページの国際交流サイトをご覧ください。



KAKEHASHI プロジェクトの報告会 2017 年 2 月

持続可能な東北のために ～本学の重点研究課題とブランディング～



東北工業大学 副学長
渡邊 浩文（わたなべ ひろのり）氏
1998年 工学部建築学科 講師
2002年 助教授
2008年 教授
2012年 建築学科長
2014年 工学部長、工学研究科長
2016年 副学長

東日本大震災から 7 年余が経過し、政府の定める復興期間 10 年を間もなく迎えます。様々な復興事業に関わられておられる多くの同窓会諸兄姉は、本学の誉れと心からの敬意を覚えるところで。

一方私たちは、東北の復興が 10 年で完遂するものではないことも承知しています。ハード的対策に加えてソフト的対策による防災・減災、高齢化先進地域における健康福祉、そして何よりも地域振興を通じて、東北の持続可能性を一層向上していかなければなりません。この「持続可能性」は、予てより今後の世界のあり方を考える必須の概念ではありますが、現在では「持続可能な開発目標 Sustainable Development Goals (SDGs)」として、世界各国の共通目標になっています。わが国では政府の SDGs 推進本部が、地域活性化、科学技術イノベーション、国土強靱化、気候変動対策、安全・安心社会等々の 8 つの優先課題を定め、重点政策としています。

さて本学は今夏、「ポスト震災後の東北 SDGs 研究実践拠点形成」との課題名で、文部科学省の私立大学研究ブランディング事業に応募いたしました。本学の研究の強みを「減災・防災技術研究」、「医工学・健康福祉研究」そして「地域・地場産業振興研究」とし、これらコア研究テーマを核として学内外連携を推進することで、震災復興期間のその後を見据えた持続可能な東北を研究・実践する拠点形成を図るものです。

本学は、「質の高い専門教育で就職に強い東北工業大学」として定評を頂戴しておりますが、これに加えて「持続可能な東北を研究・実践する東北工業大学」像を定着させていきたいと考えております。持続可能な東北なくして東北工業大学の存続はあり得ません。同窓会諸兄姉とともに、この課題に取り組んでいきたいと存じます。どうぞよろしくお願い申し上げます。



鈴木郁郎先生の iPS 創薬研究

【青森支部】

平成30年度
青森県支部活動報告

向井 務 (むかい つとむ) 氏
1982年 土木工学科卒業(12回生・今野研究室)
現在 株式会社タケナカ

今年は6月に大阪府北部での震度6弱の直下型地震、また7月には西日本で多大な被害を及ぼした7月豪雨があり、更には5年ぶりに最高気温が40度を超えるなど非常に厳しい自然の驚異に胸を痛めている次第であります。

改めて、東北工業大学同窓会の皆様方においては、お元気でご活躍の事とお慶び申し上げます。

さて平成30年6月16日土曜日に大学及び同窓会様との情報交換会を開催しました。当日は同窓会青森支部から黄金崎支部長及び幹事8名と佐藤明(COCプロデューサー・同窓会副会長)様、高橋正行(大学事務局次長)様と初顔合わせの守和彦(研究支援センター事務長)様と羽生田光雄(地域連携センター事務長)様の総勢12名となりました。

はじめに高橋大学事務局次長より4,750社を対象に行われた、大学イメージ調査にて私立工科系大学の中で「採用を増やしたい大学」で2位に「就職支援に熱心に取り組んでいる」の項目で3位に本学がランキングされた報告がありました。

この結果は東北工業大学に携わってきた職員、指導にあたっている先生方の努力の賜物であり、在校生及び同窓会員の皆様も喜んでおられると思います。

しかしながら一方では平成28年度までは本学出身での建築士の合格人数が10人であったものが平成29年度では10人以下になっている状況を青森支部会員からの指摘もありました。

このように本学の状況を踏まえながら、他の大学との差別化(特長)を更に明確に出していく必要も重要ではないかと思えます。同窓会青森支部としても微力ではありますが東北工業大学の今以上の発展に努めてまいりたいと思えます。

※「OB企業とOBの求職者を結ぶ企業紹介サイト」を各支部の企業にも案内し同窓会HPに掲載していきます。



地域(青森)で活躍するOB・OG企業紹介

田中建設株式会社

代表者名

代表取締役社長 田中 大文

当社の強み

弊社は、昭和8年の創業以来、ダム、トンネル、大型建築施設等数多くの実績を上げ、青森県による入札参加資格の認定において、土木、舗装等、主要工種で県内1位を数年来保持するまでに至ることができました。また、近年においては、既存インフラの老朽化対策と災害に強い国土形成が求められている時代に対応すべく、機能維持・向上のための修繕工事や、防災・減災のための工事にも参入し、研鑽を積んでいるところです。

今後求める人材と資格者

今後求める人材

何でも吸収したいという意欲を持って、あきらめない人を募集しております。

資格者

建築・土木施工管理技士等の有資格者優遇
資格がなくても仕事に必要な資格取得までバックアップ

OB・OG一覧

現在4名の卒業生が当社で活躍しています。
(平成30年7月現在)

URL

<http://www.tanaka-net.co.jp/>
採用についてはホームページ参照

株式会社黄金工務店

代表者名

代表取締役 黄金崎 勉 (建築学科 昭和55年卒業)

当社の強み

当社は社員教育の充実を図りながら設計から施工・管理そしてアフターメンテナンスに至るまで一貫した技術を駆使し、総合建設業として公共工事を始め民間の住宅まで幅広く業務を積み重ねています。
社訓に掲げる「責任・誠意・熱意・協調」を基本に、現状に満足することなく社員一同努力しています。

今後求める人材と資格者

今後求める人材

・いつでも挨拶のキチンと出来る人
・やる気のある元気な人
・思いやりがあり人間関係をうまく保てる人

資格者

建築施工管理技士・建築士等資格取得にはバックアップします

OB・OG一覧

現在3名の卒業生が当社で活躍しています。
(平成30年7月現在)

URL

www.kogane-koumuten.co.jp

倉橋建設株式会社

代表者名

代表取締役 倉橋 純造 (建築学科 昭和53年卒業)

当社の強み

「創造することのよこびと共に70年」地域に根差した建設業を企業理念に、青森の発展に微力ながら寄与してまいりました。21世紀に入りこれまで長年蓄積してきた技術をさらに高度なものに発展させ、一段上のステージを目標としています。常に「創造することのよこび」を心に踏まえて、クライアントに満足していただける、よりよい建造物を提供し続けることが一番大切なことと、役職員一同最善を尽しております。また、これからの企業は創造性と競争力を持たなければ健全で継続的な運営が成り立ちません。「日々の進化」倉橋建設株式会社には、それがあります。

今後求める人材と資格者

今後求める人材

・仲間を思いやり、互いに尊重し、理解・協力しながら仕事ができる人。
・現状に甘んじることなく自ら学び成長する意欲のある人。
・社会に貢献する建設業の仕事に使命感を持って取り組む人。

資格者

1級又は2級建築施行管理技士、1級建築士

OB・OG一覧

現在3名の卒業生が当社で活躍しています。
(平成30年8月現在)

URL

<http://www.kurahashi.co.jp>

株式会社堀江組

代表者名

代表取締役 堀江 敏志 (建築学科 昭和46年卒業)

当社の強み

当社は今年で創業180年になります。近年弘前市内に数多くある重要文化財の保存修理工事を始め、公共工事、民間工事等の建設工事を行っております。
今後も長年培ってきた技術と最新機材、技術を使い信頼のおける仕事をし、地域の文化と発展に役立つ事を目指しております。

今後求める人材と資格者

今後求める人材

・自由が好きな人

資格者

1級建築士 1級施工監理技士

OB・OG一覧

現在卒業生の社員はおりません。
(社員を募集していますので宜しくお願いします。)

お問合せ先

TEL: 0172-35-2711
〒036-8273 弘前市西茂森2丁目18の5

【北海道支部】

平成30年度
北海道支部活動報告

奥塚 恒一 (おくづか こういち) 氏
1980年 土木工学科卒業 (10回生・神山研究室)
現在 札幌市下水道河川局施設管理課

今年の北海道の初夏は蝦夷梅雨(えぞつゆ)となり、3週間ほど不順な天候が続いた影響で、米を中心に農作物の生育が心配されるほどです。

北海道支部の活動としては新年会(2月)と同窓会定時総会出席の報告会を兼ねた忘年会(12月)が中心です。また、隔年に札幌で開催される北海道科学大学との運動部の定期戦に合わせ、大学関係者との懇親会が恒例となっていて、本年も8月28日に札幌ビール園で開催されます。近年は北海道から工大への入学者が皆無と寂しい状況ですが、大学の近況を聞いたり、学生時代の話に花を咲かせています。

2年前の活動報告で、新たな試みとして「支部だより」の発行を実施するとありましたが、現在まで5回発行(年2回)して少しずつではありますが懇親会の参加者が増えていて、徐々に効果が出てきていると考えています。

支部活動の今後の課題としては先にも記載したように、若い世代の卒業生に北海道出身者が激減しているので、若い人に一人でも多く参加してもらい、支部活動を継続出来るようにしていかなければと、考えています。

同窓生の皆様の益々のご活躍とご健勝をお祈りして、北海道支部の活動報告とさせていただきます。



2016年定期戦懇親会



2018年新年会

【岩手北上支部】

同窓会支部活動報告

八重樫 実 (やえがし まこと) 氏
1975年 建築学科卒業 (第6回生・阿部研究室)
元北上市役所建築住宅課長

東北工業大学同窓会の皆様方におかれましては、お元気でご活躍のこととお慶び申し上げます。

さて、我が岩手北上支部の同窓会開催時期は毎年2月の金曜日と決めており、支部総会と会員に一人でも該当者がいると42歳の厄払いと60歳の還暦のお祝いを兼ねて開催しております。

その席には毎年、同窓会長、副会長、工大の関係職員の方もお招きしており、改めて感謝と敬意を表すものであります。北上支部の同窓会を開催した時期は正式にはいつからかは定かではありませんが、現在の会員は50名ほどであります。まだまだ北上地区には卒業生が存在していると思いますので掘り起しをして会員数を増やしていきたいと思っています。年に一度の会席であり、卒業以来の交流の方もあり、終始和やかに懇親を深められ楽しい一時を過ごされたことを嬉しく思います。

ここでちょっと紹介します。私は2代目の支部長として、初代の支部長は同じ建築の第1回生の小原志朗氏で(株)小原建設の代表取締役であります。昨年(2017年)、建設事業関係功労者として「国土交通大臣表彰」を受賞いたしました。長年にわたり一貫して建設業に精励し、雇用改善の推進など近代的感覚をもって経営にあたり、地域社会の発展に大きく貢献したことなどが評価されました。先輩のこのような名誉は我が北上支部会員としても大変高いことであります。

これからも、北上支部は毎年一回ではありますが、意義深い懇親の場として楽しく開催していきたいと思っております。



【新潟支部】

新潟支部活動報告

新たな同窓会(工大人)の
絆を目指し

動山 憲一 (どうやま けんいち) 氏
1976年 土木工学科卒業 (6回生・盛合研究室)
現在 学校法人みのり学園
認定こども園 長岡みのり幼稚園

平成30年6月3日(日)第21回東北工業大学同窓会新潟県支部総会を新潟市内のホテルで開催しました。

本年度も恒例としております後援会新潟県支部との同日開催、総会終了後には両支部合同の懇親会を合わせて実施し、本学の職員、保護者、OB・OGの情報交換の場となりました。

今年は新潟県からの本学への入学者が右肩下がりの中8名の入学があり、本学から今野学長、小泉後援会長を始め大勢の関係者の方々からご臨席と総会開催のお祝いのお言葉を賜りました。

また、支部総会の出席者も増え、会員の交流を深めることができました。

新潟支部会が数年来危惧してきた本県からの入学者の減少と、本支部会員の減少、盛り上りに対応してきた成果として捉えています。

さて、当県支部のH29年度総会で更なる同窓会

の盛り上に繋げる新規事業として、本学及び同窓会、後援会の交流、新たなネットワークの構築を掲げ、支部間交流事業が提案・承認されました。

事業案では、本県名産の酒をテーマとしたイベント「新潟酒の陣」に合わせ、「乾杯は日本酒で」をキャッチフレーズに【東北工業大学同窓会の集い IN 新潟酒の陣】として計画。本学及び同窓会各支部にお呼びかけをし、期待と賛同を得る事が出来ました。

今回は、開催時期等で折合いが合わず残念ながら実施を見合わせましたが、当事業の企画趣意の継続と各同窓会支部のご意見も踏まえ本年度も継続事業として取組みをすることとしております。

このような計画・事業が大勢の会員が介する切っ掛けとなり、大きな絆の広がりとなるよう期待し、支部活動報告とします。

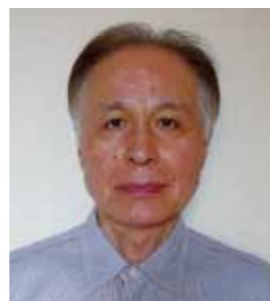


工大での思い出& 在学生へのメッセージ

クリエイティブデザイン学科

原田 一 (はらだ はじめ) 氏

昭和15年3月 九州芸術工科大学 芸術工学部 工業設計学科卒業
 昭和15年4月 文部省学生課(現文部科学省) 文部省学生課(オーストラリア) 留学
 昭和15年9月 九州芸術工科大学 芸術工学研究科 生活環境専攻修了
 昭和16年4月 日本医科大学 医学部 助手
 平成4年4月 千葉大学工学部 助手
 平成8年4月 千葉大学工学部 助教授
 平成11年10月 東北工業大学工学部 教授



私は工大で約20年、工学部工業意匠学科、デザイン工学科、ライフデザイン学部クリエイティブデザイン学科に所属していました。

八木山キャンパス勤務の頃は、夏休みや春休み中のほとんどの時間を実験や海外出張に費やしていました。特に、自動車運転中の脳活動と運転行動に関する研究として、国道286号線走行時に若年成人と高齢者の比較実験を実施していましたが(写真1)、高齢者は突然車線変更をしたりするので、命がけでした。さらに、同様の実験をドライヴシミュレーターにて実施する予定でしたが、シミュレーター酔いのため、私自身を含め特に高齢者は実験ができる状況ではなく、影響を受けない学生のみで実験を行ったこともあり(写真2)。

研究の成果を発表するために、海外の多くの都市を訪れましたが、日本語以外で議論するにはかなりの集中力が求められ、開催都市が欧米の場合は時差ボケの影響もあり、精神力と体力が必要でした。しかし、異なる

言語の参加者と交流することにより、専門分野以外の生活や文化などにも触れる機会となりました。在学生の皆さんも観光旅行だけでなく、留学、ホームステイや大学のチャレンジアプロードプログラムへの参加などにより日本人以外との交流の機会を持ってほしいと思います。

退職直前の平成30年3月には、ライフデザイン学研究科デザイン工学専攻博士後期課程第1号となる修了生を送り出すことができましたが、今野弘学長をはじめ審査委員の先生方には大変お世話になりました。

現在、私は海外移住の準備を進めているところですが、工大生が地元や日本国内だけでなく、海外においても貢献できるよう成長してくれることを願っています。



写真1



写真2

●●● 学科だより ●●●

土木工学科・建設システム工学科・都市マネジメント学科創立50周年記念事業のご報告

東北工業大学土木工学科は昭和42年に創立され、平成15年に建設システム工学科、平成23年に都市マネジメント学科と名称を変えて今日に至っており、平成29年4月に50周年を迎えました。それをお祝いし今後の発展を願って、記念誌を発行するとともに、平成29年11月18日には大学公開、記念講演会、記念祝賀会などの創立50周年記念事業を行いました。また一番町ロビーではそれに前後して11月17日～22日の期間に50周年記念展示が行われました。この事業には100を超える企業様・団体様から協賛をいただきました。また、東北工業大学同窓会からも多大なるご支援をいただきました。あらためて感謝申し上げます。

記念講演会

八木山キャンパス(6号館3階631教室)において約110名の聴講者の出席で行われました。講演して頂いた内容は以下の通りです。
 神山 眞氏(東北工業大学名誉教授)
 「地震防災・減災の視座とCivil Engineering」
 舟腰憲二氏(JR東日本:土木工学科27回生)
 「震災からの鉄道復旧を通して、思うこと」
 及川智宏氏(仙台市役所:土木工学科32回生)
 「成熟社会における土木技術者として思うこと」

記念祝賀会

記念講演会の後に、場所を江陽グランドホテルに移して記念祝賀会が行われました。出席者はご来賓、卒業生、旧・現教職員、大学関係者、在学生を含めて約300名でした。

記念展示

一番町ロビーにおいて、学科50年の歩みを8枚のパネルにまとめて展示しました。このパネルは、現在八木山キャンパス6号館において展示中です。

以上、全ての記念事業が無事に終了いたしました。学科50周年の歩みを末永く残すために、銘板(金属製プレート)を作製中です。近日中に完成予定であり、学科内に設置いたしますので機会がありましたらご覧ください。

中山正与

(都市マネジメント学科 教授(土木工学科7回生))



実行委員長挨拶(祝賀会)



盛大に行われた祝賀会

●●● 学科だより ●●●

工業意匠学科創立50周年記念事業を開催しました

東北工業大学工業意匠学科は昭和42年4月、工学系デザイナーの育成を目指した専門学科として開設されました。開設当時は高度成長に伴う工業化社会であり、工業デザイナーの育成の機運が高まっていた時代でもあります。これまでの卒業生は4,626名(クリエイティブデザイン学科と安全安心生活デザイン学科含む)で、全国各地で活躍しております。

このような中で、下記により、工業意匠学科創立50周年記念事業「工業意匠学科(デザイン工学科)からクリエイティブデザイン学科・安全安心生活デザイン学科まで」を開催しました。

当日は、卒業生と在学生約200名の参加があり、記念シンポジウムでは卒業生の他に教員の方々にも登壇いただき、パネルディスカッションを開催しました。記念パーティにおいては、樋口龍雄理事長、今野弘学長をはじめ多くのご来賓や関係者の方々と共に、学科50周年を振り返りつつ、これからの活動に向けてもそれぞれの思いを語り合う懇談の場となりました。

記念事業には、同窓会さらには協賛いただいた企業や関係団体から格別のご支援をいただきました。心より御礼申し上げます。

(工業意匠学科創立50周年記念事業実行委員一同)

工業意匠学科創立50周年記念シンポジウム・記念パーティ

・日時:平成29年11月11日(土)14:00~20:00
 ・場所:仙台国際ホテル

○記念シンポジウム

テーマ:工大・デザイン「これまでの50年」「これからの50年」を語る

第一部「これまでの50年」-暮らしのためのデザイン・秋岡芳夫を語る-
 第二部「これからの50年」-卒業生が語る実践者の視点・女性の視点-

○記念パーティ

記念展示会

・日時:平成29年11月10日~15日
 ・会場:工大一番町ロビー1階ホール
 ・展示パネル:工業意匠学科の紹介・デザイン教育の流れ・OBOGからのメッセージ



記念シンポジウム



記念パーティ

ライフデザイン学部開設10周年を迎えて

ライフデザイン学部(以降はLD学部)は、文理融合による地域社会に貢献できる人材育成を目指し、2008年4月に、当時の二ツ沢キャンパス(現在は長町キャンパスと名称)に開設しました。LD学部は、クリエイティブデザイン学科(CD学科:定員80名)・安全安心生活デザイン学科(SD学科:定員80名)・経営コミュニケーション学科(MC学科:当初の定員60名で現在は80名)の3学科で構成され、「作り手(CD学科)」「使い手(SD学科)」「つなぎ手(MC学科)」のそれぞれの立場に立ち、各学科の特性を活かせるように学部共通科目も設定し、より有機的な教育関係を構築しつつ、地域社会や個人が抱える課題解決ができる人材育成を目指した実践的教育を行ってきております。LD学部開設時は、学生募集の広報活動や高校訪問等を積極的に行い定員確保に努めました。東日本大震災直後の定員確保が困難な時期もありましたが、ここ2年間は学部の認知度も高まり、3学科共に定員を大きく充足しております。

就職に関しては、教職員のきめ細やかな指導の下、開設時から9割台の高い内定率を確保しております。大学院は、工学部時代のデザイン工学専攻を引き継ぐ形で2012年4月にライフデザイン学研究科

博士(前期・後期)課程開設とデザイン工学専攻を設置し、現在では社会人入学による学生も存在しております。

今後は、更なる教育の質保証に努めると共に、高大連携や研究ブランディング等に全教職員が積極的に取り組むことがLD学部の認知度の向上に繋がることは確かであると考えておりますが、何よりも卒業生の皆様があつてのLD学部ですので、今後とも熱きご支援、ご指導を頂ければ幸いです。尚、LD学部開設に伴う記念モニュメント設置を今年中に予定しております。

菊地 良寛

(ライフデザイン学部長:工業意匠学科卒6回生)



オープンキャンパス開催時の様子

《同窓会クラブ活動支援》

同窓会よりバレーボール部、バドミントン部、吹奏楽部に対し、物品支援を行いました。学生たちからは、「これからもより一層練習に励み、いい結果を残せるよう頑張ります。」という感謝の言葉がありました。

これらのクラブは、4月に多くの新入生が入部しました。バレーボールは、現在、2部リーグ（中位）に所属しており、1部リーグ昇格に向け30名以上の部員が日々練習に励んでおります。バドミントン部は、秋から東北学生リーグに再加入するために活動日を増やし練習に励んでおります。吹奏楽部は、近年、大学内外の活動を大幅に増やしている中で、

新たな楽器を増やし演奏に幅を持たせたいとの要望がありました。3クラブとも近年活発に活動しており、今後の活躍が期待できるクラブであります。

同窓会はこれからも課外活動に取り組む学生たちへの支援を続けてまいります。今後の工大生の活躍にぜひご期待ください。

＜支援物品＞

バレーボール部	ボール、バレーボールステージ、ブロック板
バドミントン部	シャトル
吹奏楽部	チューバ



【佐藤明副会長から贈呈】

【硬式野球部】

14年ぶりのAクラス復帰！

4月7日（土）より東北福祉大球場にて開幕した春季リーグ戦において、6勝4敗で3位となり2004年春季以来、14年ぶりのAクラス復帰を果たしました。

第3節の東北学院大戦では、第1戦は投手の力投により緊迫した投手戦を制し、第2戦は相手の猛追を振り切り勝利を収め、1990年秋以来28年ぶりに学院大から勝ち点を奪取致しました。

個人賞においても投手・内野手・外野手の計3名が受賞するなど話題多きリーグ戦となりました。

昨年2月より、元千葉ロッテマリーンズ2軍監督を歴任し、現在東北放送の野球解説者である佐々木信行氏が硬式野球部のヘッドコーチとなり、同年4月には硬式野球部が大学の強化指定クラブに指定されました。結果が求められることをチームで共通認識とし、日々高い意識で練習に励んだことや、佐々木ヘッドコーチの豊富な知識と経験による戦略が結果に結びついたと思います。

また、OB会をはじめとする卒業生の方々の激励が選手にとって励みになります。今後も良い報告が出来るよう野球部一同努めてまいりますので、引き

続き、ご支援・ご声援のほどよろしくお願い致します。

平成30年春季リーグ戦結果

日程	試合結果
第2節	4/14 福祉大 9 - 2 工大 (7回コールド)
	4/15 工大 1 - 4 福祉大
第3節	4/21 学院大 0 - 1 工大
	4/22 工大 6 - 5 学院大
第4節	4/28 仙台大 2 - 1 工大 (延長10回)
	4/29 工大 0 - 10 仙台大 (6回コールド)
第5節	5/5 工大 9 - 2 宮教大
	5/6 宮教大 2 - 7 工大
第6節	5/12 工大 3 - 0 東北大
	5/13 東北大 2 - 3 工大



【女子バレーボール部】

今後の女子バレーボール部に乞うご期待！

私たち女子バレーボール部は、今年度部会へ昇格しました。新入部員10名を迎え入れ、23名で週3回活動を行っています。

昨年度までは、市民大会など様々な大会に出場し、近隣大学の学生チームや社会人チームなどとの交流を深めてきました。このような経験を通して部員一人一人の意欲が高まり、今年度新たな取り組みとして、東北大学バレーボールリーグに加入しました。初めての春季リーグ戦では3部南リーグ3位という成績を残すことができました。

女子バレーボール部は設立3年目と歴史は浅い部ですが、設立当初から変わらず、「楽しくバレーをする」というモットーを掲げ、日々活動を行っています。リーグ戦に向けた練習だけでなく、未経験者たちも楽しくバレーボールをできるように基礎練習やミニゲームなど工夫した練習を行っています。

今後もたくさんの方々に応援してもらえるチームになれるように楽しく活動していきたいと思えます。

部長 関川 咲紀



【応援団】

復活！ 東北工業大学応援団

押忍！同窓生の皆さん、1年間の活動休止状態から復活した東北工業大学応援団です。現在1年生5人で活動しております。練習は、OBの先輩から頂いた14年前の工大祭の演舞会を見ながら練習しております。ですが、団員もそれぞれアルバイトをやっているため練習できる日や時間が限られています。外での練習は、近所迷惑になってしまいそうなので練習場所や時間の確保が難しい状況です。大学のため、戦っている選手たちのために鼓舞激励を込めて、誠心誠意応援できるように頑張っております。

今年の活動は、仙台六大学春季リーグ戦の応援に参加させて頂きました。応援する大変さと自分達の未熟さ、まだまだ鍛えなくてはいけない部分など課題がたくさん見つかりました。今後の活動は、野球応援だけでなく、他の部活動の応援にも参加して貢献できるように頑張ります。

8月末に北海道科学大学定期戦が控えているので、今年こそ総合優勝できるように応援団5人全員、全力で応援します。

団長 林 龍太郎



【ヤギプロジェクト】

祝 サークル昇格！！

平成27年度から、ヤギによる除草やアニマルセラピーを目的に始動した「工大ヤギプロジェクト」は、これまで大学の非公認サークルとして様々な活動を行ってまいりましたが、発足3年目を迎える今年度、ついに大学公認のサークルとして活動させていただけることになりました。

また、今年2月にはサークル昇格を祝福するかのよう双子のヤギ（くろみつ：オス、きなこ：メス）が生まれ、八木山、長町両キャンパスで合計5匹のヤギを飼育することになりました。

しかし、衛生面等の問題もあり、残念ながら長男だいふく、次男ごまぞう、そして生まれたばかりの妹きなこを別の場所へ引き渡すことになり、だいふくとごまぞうは若林区荒井にあるサービス付き高齢者向け住宅「アンダンチ」に、きなこは山形県山形市内にある「あおぞら保育園」にそれぞれ引っ越すことになりました。

引っ越すにあたっては、ささやかながらお別れ会を企画し、学生や教職員、地域住民の方々に参加していただきました。地域住民の方の中には目に涙を浮かべる方もおり、本学のヤギがたくさんの人たちに

に愛されていることを実感しました。

引っ越し先では、エサのやり方や食べる植物の種類、飼育するにあたっての注意事項等、情報共有が必要なことがたくさんある上に、現地の方々に快く受け入れていただけるかどうか、とても不安でした。しかし、ヤギが口にできるもの、できないものを記載した看板を設置していただいたり、引っ越し先に到着した瞬間からたくさんの方々が笑顔で集まってくれたり、抱いていた不安は取り越し苦労に終わりました。

現在、本学で飼育しているヤギの数は、母親あん子と三男くろみつの2匹だけとなってしまいましたが、引き続き除草作業や人々との交流を促進してだけでなく、オリジナルグッズの開発・販売や3匹の引っ越し先との継続的な関係構築を図り、ヤギが本学を象徴する存在となるよう、努めていきたいと考えています。

顧問 根元 亨輔



【仙台城南高校だより】

自然科学部による「トウホクサンショウウオ」の研究報告 その1

トウホクサンショウウオの研究は、平成25年の春に、自然科学部員が校地西側にある側溝の小さな水溜まりを偶然に覗いたことから始まる。そこにはオタマジャクシの卵には似ているが若干形態が異なる卵の塊があった。孵化した幼生を観察すると、それはまさしく準絶滅危惧種に指定されている野生のトウホクサンショウウオであった。

水溜まりは約60年前の開校当時から存在していたと思われるが、生育環境が年々悪化しきている状況の中で、懸命に命を繋いでいきのだから。

自然科学部の研究目的は準絶滅危惧種に指定されているトウホクサンショウウオの保護にある。保護

する為には生態を十分に把握しないといけないが、研究事例が少ないのが実態である。

まずは生態を把握しようと、現在は水溜まりにカメラを設置するなどしてトウホクサンショウウオの行動を観察している。

これまでの研究成果は日本生物教育学会等で発表してきているが、生徒達には専門家のご指導を得ながら、高校生ならではの観察力で生態の解明にチャレンジしてほしいと思っている。

今後の生徒達の研究成果を乞うご期待！

仙台城南高等学校 校長 中川西 剛



卵の様子 3月中旬頃

孵化した幼生 3月下旬

4年後の成体 約10cm

学会での生徒発表

東北工業大学一番町ロビー 15周年事業

— 工大の研究ブランディング戦略を考える円卓会議 —

テーマ： 持続可能な東北を研究・実践する大学を目指して

東北工業大学一番町ロビーは、2003年（平成15年）に開設され、本年で15周年を迎えました。地域と大学が一体となり、産業と文化の発展や優れた人材の育成を目的に、1階ギャラリーでは700回以上の企画展示の開催や、2階ホールでは430回以上の市民公開講座、各種シンポジウムやセミナー、関係団体との情報交換会等を開催してきました。

つきましては、一番町ロビー15周年を記念し、「持続可能な東北を研究・実践する大学を目指して」をテーマに、円卓会議を開催することになりました。

教職員や学生、さらには同窓会会員の皆様には、お忙しいところは存じますが、是非ご出席いただきますよう右記にご案内申し上げます。

【日 時】10月1日（月）16時～18時15分
【会 場】東北工業大学一番町ロビー2階ホール
仙台市青葉区一番町1-3-1（TMビル）
TEL：022-723-0538

【主 催】東北工業大学
【協 力】東北工業大学同窓会

内容：

- 1) 講演・話題提供（16:05～16:35）
テーマ：“東北工業大学のブランディング戦略”
講 師：東北工業大学 副学長 渡邊 浩文
- 2) 「持続可能な東北」円卓会議（16:35～18:10）
テーマ：“地域から工大に期待したいこと……”
パネリスト：青森・岩手・福島・山形・宮城の同窓会会員が登壇（12名程度予定）
モデレーター：東北工業大学 副学長 渡邊 浩文

『第43回 工大祭』にぜひお越しください

○第43回工大祭（テーマ：Bloom～平成最後に咲き誇れ～）は下記により開催します。
開催日：平成30年10月13日（土）・14日（日）10:00～
場 所：東北工業大学 八木山キャンパス（仙台市太白区八木山香澄町35-1）
<https://titgakusai43rd.amebaownd.com/>

今年度の同窓会定時総会は、工大祭の開催日程に合わせて開催されます。大学祭実行委員会では、第43回となる今回のテーマに『Bloom～平成最後に咲き誇れ～』を掲げて準備を進めています。同窓生の皆さま、第43回 工大祭にお誘い合わせの上、ぜひお越しください。

実行委員の年代は全員平成生まれで構成されており、また今年度が平成という時代の最後の工大祭になるという“節目”を意識しています。「平成生まれの自分達にしかできない感性で作りたい！」という彼らの思いを聞いたとき、私（昭和生まれ）としては、やや距離感を感じてしまいました。しかし、彼らがそのような考えたのは、それなりの背景があつてのことでした。それは、例年4月に大学祭実行委員会が準備に使う“作業部屋開き”を行うにあたって部室を清掃していた時のこと、古い工大祭の写真が見つかり、それを眺めているうちに「工大祭の歴史を懐古するいい機会ではないか」とい

う着想に至ったということでした。彼らとしては、これまでの東北工業大学の伝統に自分たちの感性を織りまぜて表現するには絶好の機会ととらえたようです。

準備作業の中間点となる7月3日、工大祭の内容を吟味するプレゼンテーションが行われましたが、この時、今野学長が大学時代の工大祭の様子を話してくださいました。学生運動の影響もあって、社会的に大学祭が開催できないという大学もある中で「工大祭、やっています！」の看板を掲げた、というエピソードは当時を知らない私も実行委員の学生も印象的で、思わず八木山キャンパスに掲げられた看板を想像したのでした。

同窓生の皆さまにも、それぞれに駆け抜けた青春時代があり、工大祭も青春時代の重要な一片になっていることでしょう、どうぞ久しぶりに工大祭をのぞいてください、当時を懐かしむいい機会となりますように。

大学祭実行委員会 顧問 本田春彦

特別講演のお知らせ

○東北工業大学名誉理事長岩崎俊一先生の特別講演が下記により開催されます。
日 時：平成30年10月13日（土）13時30分～14時30分
会 場：八木山キャンパス1号館2階 121教室
演 題：豊かな社会のために－情報技術の革新を通して－
講 師：東北工業大学名誉理事長 岩崎俊一先生
※講演会終了後、14時45分より同窓会総会を開催します。

<同窓会からのお知らせ>

東北工業大学同窓会 第34回定時総会・懇親会のお知らせ

ホームカミングデー(大学祭)企画 特別講演「豊かな社会のために - 情報技術の革新を通して -」

岩崎俊一先生(文化勲章受章者、日本学士院会員、名誉理事長)

開催日 平成30年10月13日(土)

【特別講演】

会場 東北工業大学八木山キャンパス1号館2階121教室

時間 13:30～14:30

【定時総会】

会場 東北工業大学八木山キャンパス1号館2階121教室

時間 14:45～15:45

議題 <1>平成29年度事業報告 <4>平成30年度事業計画
<2>平成29年度決算報告 <5>平成30年度予算案
<3>平成29年度監査報告 <6>その他

八木山キャンパスから地下鉄東西線「八木山動物公園駅」までの送迎バスもご利用ください。

【懇親会】

会場 仙台国際ホテル

(仙台市青葉区中央4-6-1 022-268-1111(代))

時間 17:00～19:00

懇親会参加費 3,000円(※学生会員は無料となります。)

※参加費は当日会場にて徴収いたします。

懇親会には多くの先生方もご臨席されます。同級生、研究室やクラブの同窓生等、お誘い合わせの上で参加ください。

卒業した皆様へ

東北工業大学同窓会 会費未納の方へ「会費納入のお願い」

同窓会会費は会員間のネットワーク化事業、在学生への支援、支部活動の推進、本学および本学後援会との共同事業等を進めるために有効に活用しています。同窓会会費未納の方は、別紙郵便振替通知書で、早急に納入いただきますようお願い申し上げます。

●終身会費 20,000円

(5,000円×4回・10,000円×2回の分割納入方法もございます)

●郵便振替口座

02280-5-22263 東北工業大学同窓会

※すでに納入済の会員には、郵便振替通知書は同封しておりません。

本会運営の趣旨をご理解の上、この通知をご御容赦ください。

発行：東北工業大学同窓会

事務局：東北工業大学キャリアサポート課内

〒982-8577 仙台市太白区八木山香澄町35-1

TEL.022-305-3336 FAX.022-305-3337

URL.koudai-dousoukai.net